

ふくしま共創チームワーキングチーム 第2回活動結果概要

令和7年11月25日（火）中通り開催
令和7年11月27日（木）浜通り開催
令和7年12月 9日（火）会 津開催

ふくしま共創チーム ワーキングチーム（中通り） 1/2

- 開催日時 令和7年11月25日（火）
- 訪問先企業 日東紡績（株）富久山事業センター
- 場 所 （株）エフコム ドリーム・ラボ上伊豆島
- 参 加 者 35名（福島大学生7名、企業・団体23名、市町村5名）

（ワークショップでの主な意見）

テーマ1：第1回WT（魅力的な働き方）に関する深掘り

➤ 挑戦しやすい職場風土に必要なこと

- ・小さな成功体験の積み重ね、失敗を通じた上司部下の関係構築（ex.研修での上司の「しくじりエピソード」）
- ・経営層や中間管理職の価値観のアップデート（慣習や古い考え方、新しい取組への理解や協力姿勢）
- ・話しやすい環境づくり（上司の傾聴とフィードバック、クッション材の人材育成、業務外のことを話す1on1面接 等）
- ・中間管理職の働きやすさ（＝管理職の働き方は最も身近な将来のキャリアビジョンにつながる）
- ・新しいことに挑戦するときの仲間づくり、気づきのきっかけづくり（社外との交流機会）

➤ 良い制度があるにも関わらず、使いにくい理由と改善案

- ・休暇などを利用しやすい社内風土（周囲の人の目、人間関係、休暇取得時の周囲への負担などからの敬遠）
→ 上司の積極的な制度利用（ロールモデルの提示）、お互い様精神・休みの罪悪感払拭、職場での信頼関係構築
- ・業務多忙、業務の属人化による休暇等の取得困難
→ DX化の推進などの業務効率化・労働生産性の向上、休暇等の取得状況の見える化
- ・女性管理職の登用について、管理職にチャレンジする選択がしにくい、管理職の負担感が強い
→ 管理職の業務バランス調整、女性だけでなく男性も働きやすく管理職を目指しやすい環境づくり（負担軽減）

テーマ2：地域に愛着を持つために

➤ 必要な要素や環境

- ・学生たちが将来「30代で育児・仕事を両立しながら生活できる地域」を実現できる環境

➤ 地域への愛着を持つために、行政・企業・団体がやるべきことや自分がやってみたいこと

- 幼児、小中学生、高校生に対して…
 - ・小さい頃から自分が住む地域や企業のことを知る・関わる機会を増やす
 - ・自分が住んでいる外の地域についても知る機会を増やす
- 大学生等の若年層に対して…
 - ・生活環境や企業での働き方などの発信（手に取らなくても自然に情報が入ってくるように）
 - ・自分のキャリアや地域での生活に関するロールモデルの発信（女性だけでなく男性も）
 - ・職業の選択肢を知る機会や、そのキャリアのイメージを持つ機会
 - ・県外で生活し福島を外から見る機会（ex.学生期間中に県外での短期県外生活など）
- 企業（従業員）に対して…
 - ・従業員及び従業員家族のための経営（従業員の健康、会社への愛着形成）
- 地域の環境に求めること…
 - ・子どもがやりたいことに挑戦させられる環境
 - ・子育て、買い物、医療サービスなど、普段の生活がしやすいこと
 - ・生涯に渡って学び続けることができる環境
 - ・地域で情報共有したり、生活をサポートしてくれる環境や場所
（ex.行政、企業、地域団体が連携したサードプレイスの運営）

ふくしま共創チーム ワーキングチーム（浜通り） 1/2

- 開催日時 令和7年11月27日（木）
- 訪問先企業 （株）おのざき
- 場 所 いわき産業創造館（LATOV 6階）
- 参加者 22名（福島高専生4名、企業・団体16名、市町村6名）

（ワークショップでの主な意見）

テーマ1：第1回WT（魅力的な働き方）に関する深掘り

➤風通しのよい職場にするために必要なこと

- 上司との関係性に着目した意見が多く出され、フラットな関係で気軽にコミュニケーションが取れることを望む声が多く、上司・部下間の円滑なコミュニケーションのために必要と感じる仕組みが、若者の視点から挙げられた。

- （例）・業務以外の話もできる関係性や仕組み（1on1ミーティングの実施、昼食会などの自己開示の機会）
- ・上司の意識改革（上司からの声掛け、話しやすい環境、傾聴、共感、評価（褒める・感謝）、挨拶 等）
 - ・ハラスメントを気にしすぎない（若手もコミュニケーションをとりたいのに互いに遠慮しているケースも）
 - ・下の意見を吸い上げる仕組み（社内アンケートや360°評価）の存在、社長室の扉が開いている
 - ・クッション人材の存在
 - ・挑戦や変化を受け入れる風土の存在、企業ビジョンの従業員への浸透（目指す方向の一致）
 - ・自分のコンディションを周囲に伝えられる仕組み、集中タイムの設定
 - ・フリーアドレスの導入
 - ・職場でのBGMの導入
 - ・コーヒーやお菓子コーナーなどの小さな喜びによるコミュニケーション促進
 - ・参加自由な社内・地域との交流イベントの開催

- 上記のような取組による心理的な安全性の確保が、若者目線での働き方や人材の定着につながるとの意見

テーマ2：地域に愛着を持つために

➤ 必要な要素や環境

- ・過去の経験と再現性（変わらないもの）があることが地元への愛着を感じる
- ・人とのつながりや共通のコミュニティがあることが大切
（ex. 応援する対象（プロスポーツチームや地元の学校の活躍）があること）
- ・歴史や食などを含め、小さな頃から地元（地域）のことを知る経験や機会（学校での取組など）
- ・親世代が楽しく暮らしていること（その姿を子どもたちが見ること）、親世代の地元愛
- ・継続的に行われている地域行事（イベント・お祭り）の存在・参加
- ・男性・女性ともに子育てをしやすい環境

➤ 地域への愛着を持つために、行政・企業・団体がやるべきことや自分がやってみたいこと

- 子どもが地域の人や企業に学びに行く機会と、子どもが学んだことを発信する機会
（子ども経由で大人が地元企業について知ることにもつながる）
- 戻ってきたいと思える環境づくり
 - ・Uターン者のロールモデル（生の声）の発信
 - ・個人からのSNSでの発信・拡散（←行政や企業からの発信にも限界がある）
 - ・地元就職者の奨学金免除
- 人とのつながりをつくり、家族の思い出として残る地域行事や文化などの形成
 - ・企業対抗運動会や、地の物を使った企業対抗芋煮フェスなどの地域を盛り上げるイベント開催、また行政からの支援（イベント開催等への支援、地域の学校等との連携支援、広報など）
 - ・地域のプロスポーツなどの観戦や応援などの体験

ふくしま共創チーム ワーキングチーム（会津） 1/2

- 開催日時 令和7年12月9日（火）
- 訪問先企業 会津中央乳業（株）
- 場 所 スマートシティA i C T 交流棟
- 参 加 者 22名（会津大学生4名、企業・団体14名、市町村4名）

（ワークショップでの主な意見）

テーマ1：第1回WT（魅力的な働き方）に関する深掘り

➤ 良い制度や新しい制度を使いやすくするため要因や対応に必要なこと

● 要因

- ・年齢層の壁（考え方などの時代の変化）
- ・DX化も使える層・使えない層がいてうまくいかない
- ・新しいことに挑戦する意欲と、労力の不足
- ・制度利用のための手間（制度やアプリなどが増えすぎている）
- ・会社組織そのものへの興味関心の低下
- ・人材不足、替わる人がいない（休暇取得の難しさ）

● 解決策

- ・時代変化を捉えた上層部の意識改革、部下への歩み寄り、休暇などを利用しやすい環境、空気感づくり
（管理職の制度理解、上層部や管理職の積極的な制度利用、自分も休みをとる当事者という意識(思いやり) etc)
- ・社内制度の周知（制度の整理と掲示）と、見直し機会（会議やアンケート）とそのフィードバック

➤ どうしたら福島県内の企業や地元企業で働こう（就職・定着）と思えるか？

- 働きやすさ ・休暇取得 ・残業の少なさ ・賃金アップ ・子育て、介護のしやすさ ・企業カウンセラー・メンター制度 ・ホワイト企業認定
- つながり ・ひととのつながりや温かさ（優しさ）を感じられる ・自分の居場所があるという感覚
- 情報発信 ・地元企業を知る機会（特に学生が知る手段（SNSや衣食住に密着した発信方法など））
- 社会インフラ ・病院や学校などの充実 ・交通利便性の改善（他都市や県外へのアクセス含む） ・遊べる場所

テーマ2：地域に愛着を持つために

➤ 必要な要素や環境

- ・地域の人とのつながり（世代間の交流、地域コミュニティ、お祭りやイベントの維持・活性化など）
- ・文化や歴史、観光スポットなど、地域・地元詳しくなること。それらの地域の魅力を小さい頃・若い頃から知る機会。
- ・他地域の人に地元の魅力を伝える機会（他の地域の人との関わりや、他の地域に出ることで再確認できる）
- ・若者の交流が生まれる場所や遊べる場所を増やす
- ・生活のしやすさ（生活に必要なスーパーや生活雑貨などの入手の容易さ、除雪なども含めた交通インフラ改善）
- ・都会に疲れた人が返ってこれる場所

➤ 地域への愛着を持つために、行政・企業・団体がやるべきことや自分がやってみたいこと

●行政

- ・学生（高校生、大学生）に対するアンケートによる現状把握
- ・児童・生徒が地域の文化を学ぶ授業
- ・交通インフラ整備（県外含む他都市との交通手段の利便性向上、使いやすい移動手段（住民無料など））
- ・コンパクトに人を集めていく
- ・自然や風景、食などを含む、観光資源の保存・維持と、それらの地域文化とトレンドを融合した新しい文化
- ・行政、企業、団体がコミュニケーションをとれる機会の確保
- ・世代間交流への支援
- ・若者を巻き込んだ、住民協働のまちづくり（イベントや地域課題解決の場）

●企業

- ・複数の地元企業共催によるイベント、お祭り、フェスなどの開催
- ・地域貢献活動（環境美化、地域など）
- ・社会人が働きたいと思える環境づくりや、自社の魅力発信

●団体・地域など

- ・あらゆる年代が気軽に立ち寄れる場所の設置
- ・地域を知る機会や趣味で集まるイベントの増加
- ・団体間の連携強化（ex.商工会×観光協会）
- ・地域を超えた学生同士の交流（地元をPRする機会）